

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	生命倫理・動物福祉	必修・選択区分	必修	
		授業回数		時間数 30
対象年次	1年	授業形態	講義	
担当教員 実務経験○	堀内香（獣医師）			
授業概要	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。			
到達目標	生命倫理の概念、動物福祉の概念、愛玩動物の福祉、産業動物の福祉、実験動物の福祉、展示動物の福祉について理解する。			
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻 生命倫理・動物福祉			
評価方法	出席率80%以上・試験			

授業計画及び学習の内容		
1	第1章生命倫理の概念と様々な動物観	生命倫理の考え方、生命倫理と獣医療の関わり
2	第1章生命倫理の概念と様々な動物観	動物に対する様々な考え方と影響を与える要因、動物観の歴史の変遷
3	第2章動物福祉の概念	動物福祉とは、近代の動物愛護運動
4	第2章動物福祉の概念	現代の動物愛護運動、動物の権利と動物福祉
5	第2章動物福祉の概念	日本における動物愛護と世界における動物福祉、動物病院での安楽死の考え方
6	第3章動物福祉の評価	動物福祉の評価とは、動物福祉の生理学的指標
7	第3章動物福祉の評価	動物福祉の行動学的指標、課題
8	第4章動物福祉と社会	動物福祉と社会、法律と動物福祉
9	第4章動物福祉と社会	経済活動と動物福祉、動物福祉教育、動物保護活動
10	第5章愛玩動物の福祉	愛玩動物の飼育の現状と福祉
11	第5章愛玩動物の福祉	家庭での適正飼養と動物福祉上の問題
12	第5章愛玩動物の福祉	愛玩動物の繁殖、流通、利用に関する福祉上の問題
13	第5章愛玩動物の福祉	飼育放棄と飼い主のいない犬・猫の問題
14	第5章愛玩動物の福祉	愛玩動物福祉のための対策
15	振り返り	
16	第6章産業動物の福祉	産業動物福祉改善の歴史と定義
17	第6章産業動物の福祉	産業動物の飼養の概況と動物福祉の課題
18	第6章産業動物の福祉	産業動物における福祉上の主たる問題
19	第7章実験動物の福祉	産業動物に関する国際的福祉基準、動物福祉向上の方策
20	第7章実験動物の福祉	実験動物の福祉と動物実験に関する法規制、3Rの原則
21	第7章実験動物の福祉	環境エンリッチメント、獣医学的ケア
22	第7章実験動物の福祉	実験動物の苦痛の評価、安楽死を伴わない動物実験、労働安全衛生
23	第8章展示動物および使役動物の福祉	展示動物の福祉

24	第8章展示動物および使役動物の福祉	展示動物の福祉
25	第8章展示動物および使役動物の福祉	使役動物の福祉-身体障害補助犬(補助犬)を中心に-
26	第8章展示動物および使役動物の福祉	使役動物の福祉-身体障害補助犬(補助犬)を中心に-
27	第9章野生動物の福祉	野生動物の福祉
28	第9章野生動物の福祉	野生動物の福祉に関する諸問題
29	第9章野生動物の福祉	対策と課題
30	振り返り	

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	動物形態機能学ⅠⅡⅢⅣ	必修・選択区分	必修	
		授業回数		時間数 120
対象年次	1年	授業形態		講義
担当教員 実務経験○	菅谷茜(獣医師)、佐々木ルリエ(獣医師)、安田一敏(獣医師)			
授業概要	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。			
到達目標	各動物の形態や機能を理解し、病的変化について理解する。			
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻 動物形態機能学			
評価方法	出席率80%以上・試験			

授業計画及び学習の内容

動物形態機能学Ⅰ
(1, 30)

1	第1章 生命のすがた	体を形づくる基本物質、細胞のしくみと働き
2	第1章 生命のすがた	遺伝情報
3	第1章 生命のすがた	上皮組織
4	第1章 生命のすがた	腺組織、支持組織
5	第1章 生命のすがた	筋組織、神経組織
6	第1章 生命のすがた	器官の成り立ちと維持、調節システム
7	第2章 血液と造血器	血球成分と血漿成分
8	第2章 血液と造血器	赤血球の構造と機能
9	第2章 血液と造血器	白血球の構造と機能
10	第2章 血液と造血器	白血球の構造と機能
11	第2章 血液と造血器	白血球の構造と機能
12	第2章 血液と造血器	血小板機能と血液凝固異常、線維素溶解
13	第2章 血液と造血器	血小板機能と血液凝固異常、線維素溶解
14	第2章 血液と造血器	血小板機能と血液凝固異常、線維素溶解
15	振り返り	
16	第3章 血液循環とその調節	循環器系の概要
17	第3章 血液循環とその調節	心臓の仕組み
18	第3章 血液循環とその調節	心筋の性質
19	第3章 血液循環とその調節	心筋の自動性と興奮の伝わり
20	第3章 血液循環とその調節	心臓の周期
21	第3章 血液循環とその調節	心電図
22	第3章 血液循環とその調節	心臓機能の調節
23	第3章 血液循環とその調節	血管のしくみと働き
24	第3章 血液循環とその調節	血液循環の調節(血圧)
25	第3章 血液循環とその調節	毛細血管を横切る物質の移動
26	第3章 血液循環とその調節	リンパ系のしくみ、脾臓のしくみ
27	第4章 生体の防御機構	生体を守る防御機構
28	第4章 生体の防御機構	自然免疫
29	第4章 生体の防御機構	獲得免疫

	30	振り返り	
動物形態機能学Ⅱ (31・60)	31	第7章 からだの支持と運動	体の位置・方向を示す用語と表面解剖学的区分
	32	第7章 からだの支持と運動	骨格(骨格の概念)
	33	第7章 からだの支持と運動	骨格(骨格系の分類)
	34	第7章 からだの支持と運動	骨格
	35	第7章 からだの支持と運動	骨格
	36	第7章 からだの支持と運動	骨格
	37	第7章 からだの支持と運動	骨格
	38	第7章 からだの支持と運動	骨格
	39	第7章 からだの支持と運動	骨格筋
	40	第7章 からだの支持と運動	骨格筋
	41	第7章 からだの支持と運動	骨格筋
	42	第7章 からだの支持と運動	骨格筋
	43	第7章 からだの支持と運動	骨格筋
	44	第7章 からだの支持と運動	骨格筋
	45	振り返り	
	46	第6章 感覚と情報伝達	感覚系とは
	47	第6章 感覚と情報伝達	受容器と閾値
	48	第6章 感覚と情報伝達	体性感覚
	49	第6章 感覚と情報伝達	体性感覚
	50	第6章 感覚と情報伝達	嗅覚
	51	第6章 感覚と情報伝達	嗅覚
	52	第6章 感覚と情報伝達	味覚
	53	第6章 感覚と情報伝達	聴覚と平衡感覚
	54	第6章 感覚と情報伝達	聴覚と平衡感覚
	55	第6章 感覚と情報伝達	聴覚と平衡感覚
	56	第6章 感覚と情報伝達	聴覚と平衡感覚
	57	第6章 感覚と情報伝達	視覚
	58	第6章 感覚と情報伝達	視覚
	59	第6章 感覚と情報伝達	視覚
	60	振り返り	
動物形態機能学Ⅲ ()	61	第5章 脳と神経	脳と神経系の役割
	62	第5章 脳と神経	神経系を構成する細胞
	63	第5章 脳と神経	静止膜電位と活動電位
	64	第5章 脳と神経	興奮の伝導とシナプス伝達
	65	第5章 脳と神経	シナプス
	66	第5章 脳と神経	興奮性シナプスと抑制性シナプス
	67	第5章 脳と神経	神経伝達物質と受容体
	68	第5章 脳と神経	神経伝達物質と受容体
	69	第5章 脳と神経	神経回路、神経系
	70	第5章 脳と神経	脳の構成要素
	71	第5章 脳と神経	脳神経、脊髄と脊髄神経
	72	第5章 脳と神経	自律神経系
	73	第5章 脳と神経	行動の神経調節
	74	第5章 脳と神経	行動の神経調節
	75	振り返り	
	76	第8章 外皮系と体温調節	外皮

6 1 9 0)	77	第8章 外皮系と体温調節	皮膚の付属器官
	78	第8章 外皮系と体温調節	皮膚による体温調節機構
	79	第9章 呼吸とその調節	呼吸器の構造
	80	第9章 呼吸とその調節	呼吸器の構造
	81	第9章 呼吸とその調節	呼吸
	82	第9章 呼吸とその調節	呼吸
	83	第10章 内分泌とホルモン	内分泌とは-外分泌や傍分泌との違い
	84	第10章 内分泌とホルモン	ペプチドホルモン・ステロイドホルモン・アミン型ホルモンとは
	85	第10章 内分泌とホルモン	内分泌の基本構造と機能
	86	第10章 内分泌とホルモン	内分泌の基本構造と機能
87	第10章 内分泌とホルモン	視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・ランゲルハンス島	
88	第10章 内分泌とホルモン	視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・ランゲルハンス島	
89	第10章 内分泌とホルモン	視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・ランゲルハンス島	
90	振り返り		
動物形態機能学 IV (9 1 1 2 0)	91	第11章 消化吸収と栄養代謝	歯の分類と数、舌の形と働き
	92	第11章 消化吸収と栄養代謝	咽頭と嚥下、食道
	93	第11章 消化吸収と栄養代謝	胃のしくみと働き
	94	第11章 消化吸収と栄養代謝	腸のしくみと働き
	95	第11章 消化吸収と栄養代謝	唾液腺
	96	第11章 消化吸収と栄養代謝	膵臓
	97	第11章 消化吸収と栄養代謝	肝臓
	98	第11章 消化吸収と栄養代謝	炭水化物の消化と吸収
	99	第11章 消化吸収と栄養代謝	タンパク質の消化と吸収
	100	第11章 消化吸収と栄養代謝	脂肪の消化と吸収、代謝総論
	101	第11章 消化吸収と栄養代謝	三大栄養素の分子のしくみ、代謝経路の概要
	102	第11章 消化吸収と栄養代謝	炭水化物(糖質)の代謝経路・タンパク質の代謝経路
	103	第11章 消化吸収と栄養代謝	脂質の代謝経路
	104	第11章 消化吸収と栄養代謝	ビタミン、ミネラル
	105	振り返り	
	106	第12章 尿の生成と体液調節	腎臓
	107	第12章 尿の生成と体液調節	腎臓
	108	第12章 尿の生成と体液調節	腎臓
	109	第12章 尿の生成と体液調節	腎臓
	110	第12章 尿の生成と体液調節	尿路
111	第12章 尿の生成と体液調節	尿路	
112	第12章 尿の生成と体液調節	体液	
113	第12章 尿の生成と体液調節	体液	
114	第12章 尿の生成と体液調節	体液	
115	第12章 尿の生成と体液調節	電解質バランス	
116	第12章 尿の生成と体液調節	電解質バランス	
117	第12章 尿の生成と体液調節	酸塩基平衡	
118	第12章 尿の生成と体液調節	酸塩基平衡	
119	第12章 尿の生成と体液調節	酸塩基平衡	
120	振り返り		

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	動物繁殖学	必修・選択区分	必修	
		授業回数	時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義	
担当教員 実務経験○	堀内香(獣医師)			
授業概要	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。			
到達目標	生殖器の形態と機能、性周期と交配について理解する。			
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻 動物繁殖学			
評価方法	出席率80%以上・試験			
授業計画及び学習の内容				
1	第1章 性と生殖	生殖とその分類		
2	第1章 性と生殖	生殖器の基本的なしくみ(雄の生殖器)		
3	第1章 性と生殖	生殖器の基本的なしくみ(雌の生殖器)		
4	第1章 性と生殖	生殖機能調節に関わるホルモン(雄犬と雄猫の生殖系ホルモン)		
5	第1章 性と生殖	生殖機能調節に関わるホルモン(雌犬と雌猫の生殖ホルモン)		
6	第1章 性と生殖	発情徴候と発情周期(犬の発情徴候・発情周期)		
7	第1章 性と生殖	発情徴候と発情周期(猫の発情徴候・発情周期)		
8	第1章 性と生殖	受精と妊娠(犬及び猫の受精、胚の発育及び着床)		
9	第1章 性と生殖	受精と妊娠(犬と猫の胎膜と胎盤、犬と猫の妊娠診断)		
10	第1章 性と生殖	分娩と助産、帝王切開(犬、猫の分娩徴候・分娩の様式・経過・難産・帝王切開)		
11	第1章 性と生殖	遺伝子と器官発生		
12	第1章 性と生殖	去勢手術		
13	第1章 性と生殖	不妊手術		
14	第1章 性と生殖	人工授精		
15	振り返り			
16	第2章 新生子管理	新生子期とは		
17	第2章 新生子管理	新生子のため飼養環境		
18	第2章 新生子管理	新生子のため飼養環境		
19	第2章 新生子管理	新生子のため飼養環境		
20	第2章 新生子管理	新生子のため飼養環境		
21	第2章 新生子管理	新生子のため飼養環境		
22	第2章 新生子管理	新生子のため飼養環境		
23	第2章 新生子管理	新生子の解剖学的特徴		
24	第2章 新生子管理	新生子の解剖学的特徴		
25	第2章 新生子管理	新生子の生理的機能		

26	第2章 新生子管理	新生子の生理的機能
27	第2章 新生子管理	新生子の生理的機能
28	第2章 新生子管理	新生子の生理的機能
29	第2章 新生子管理	新生子の生理的機能
30	振り返り	

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	動物行動学	必修・選択区分	必修	
		授業回数		時間数 30
対象年次	1年	授業形態	講義	
担当教員 実務経験○	渡辺まゆみ(JKCTリマー教士・JKC全犬種群審査員・JKC訓練教士)			
授業概要	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。			
到達目標	動物行動学の基礎、個体維持行動、発達過程と社会行動、学習理論、問題行動、行動治療について理解する。			
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻 動物行動学			
評価方法	出席率80%以上・試験			

授業計画及び学習の内容

1	第1章動物行動学の基本概念	動物行動学の発展と行動学研究の4分野・動物行動学の成り立ちと発展
2	第1章動物行動学の基本概念	行動学研究の4分野・行動の進化と適応
3	第1章動物行動学の基本概念	家畜化に伴う行動学的変化ー犬を例として
4	第2章維持行動の意味と効果	摂食行動・飲水行動
5	第2章維持行動の意味と効果	排泄行動・身づくろい行動・護身行動
6	第3章社会行動	群れの社会構造・動物の社会行動とは・社会性が不明瞭な動物の集団
7	第3章社会行動	生殖行動・哺乳類の生殖戦略・性行動・母性行動(育子行動)
8	第3章社会行動	コミュニケーション行動・動物のコミュニケーション行動と感覚世界・犬の視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動
9	第4章社会行動	コミュニケーション行動・動物のコミュニケーション行動と感覚世界・犬の視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動
10	第3章社会行動	猫の視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動・犬と猫の嗅覚を用いたコミュニケーション行動、敵対行動・親和的行動
11	第4章社会行動	猫の視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動・犬と猫の嗅覚を用いたコミュニケーション行動、敵対行動・親和的行動
12	第4章行動発現のしくみ	行動の動機づけ・脳による行動の制御
13	第4章行動発現のしくみ	行動の日周リズム・行動の年周リズム・その他の周期性
14	第5章行動の発達と学習	行動の発達科学・新生子期(犬)・移行期(犬)・社会化期(犬)・若年期・成熟期から高齢期・猫の行動発達
15	振り返り	
16	第5章行動の発達と学習	行動の発達科学・新生子期(犬)・移行期(犬)・社会化期(犬)・若年期・成熟期から高齢期・猫の行動発達
17	第5章行動の発達と学習	社会構造の影響・母性行動の影響・遺伝と環境・訓化・感作と脱感作・般化・学習に影響を与える因子
18	第5章行動の発達と学習	古典的条件づけ・高次条件づけ・オペラント条件づけ・三項随伴性・条件付けの方法と消去・反応形成
19	第5章行動の発達と学習	古典的条件づけ・高次条件づけ・オペラント条件づけ・三項随伴性・条件付けの方法と消去・反応形成

20	第6章問題行動と行動診療	正常行動・異常行動・問題行動とは・問題行動の関連因子・愛玩動物看護師にとっての臨床動物行動学の必要性
21	第6章問題行動と行動診療	問題となっている行動を別の行動と置き換える行動修正法(行動置換法)・問題行動に関わる強化子・罰子を操作し問題行動を減らす行動修正法
22	第6章問題行動と行動診療	行動診療とは・カウンセリングとコンサルテーション・獣医師の役割・愛玩動物看護師の役割・問題行動の客観的評価法・治療プログラムの作成とフォローアップ、問題行動治療の考え方・環境整備・行動修正法
23	第6章問題行動と行動診療	薬物療法・不妊手術・去勢手術・外科的療法・合成フェロモン・食事療法とサプリメント・基本的なトレーニング・問題行動治療の助けになるグッズ
24	第7章犬と猫における主な問題行動	犬の攻撃行動・犬の攻撃行動に関係する生得的因子と環境因子
25	第7章犬と猫における主な問題行動	猫の攻撃行動・猫の攻撃行動に関係する生得的因子と環境因子
26	第7章犬と猫における主な問題行動	恐怖・不安に起因する問題行動の種類・定義・診断基準・犬と猫の攻撃的行動の治療・恐怖行動・不安行動の治療
27	第7章犬と猫における主な問題行動	犬の恐怖・不安に起因する問題行動、恐怖、不安とは・恐怖行動・不安行動の治療・猫の排泄に関する問題行動・排泄に関する問題行動に関連する生得的因子と環境因子
28	第7章犬と猫における主な問題行動	犬と猫の常同障害・犬と猫の高齢性認知機能不全・病因と寄与因子
29	第7章犬と猫における主な問題行動	猫の排泄に関する問題行動の治療・犬と猫の高齢性認知機能不全の治療(進行を抑える)
30	振り返り	

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	比較動物学ⅠⅡ	必修・選択区分	必修		
		授業回数	60	時間数	60
対象年次	1年	授業形態		講義	
担当教員 実務経験○	大津政義(獣医師)				
授業概要	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。				
到達目標	動物の種類及び特性、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻				
評価方法	比較動物学Ⅰ、比較動物学Ⅱ ※いずれも出席率80%以上 試験				

授業計画及び学習の内容

比較動物学Ⅰ
(1・30)

1	第1章産業動物	牛の歴史
2	第1章産業動物	牛の特性
3	第1章産業動物	牛の品種
4	第1章産業動物	牛の解剖と生理
5	第1章産業動物	牛の飼養管理
6	第1章産業動物	牛に多い疾病
7	第1章産業動物	牛に多い疾病
8	第1章産業動物	馬の歴史
9	第1章産業動物	馬の活用
10	第1章産業動物	現在の飼育状況
11	第1章産業動物	代表的な品種の特徴
12	第1章産業動物	馬の解剖と生理
13	第1章産業動物	馬の飼養管理
14	第1章産業動物	馬に多い疾病
15	振り返り	
16	第1章産業動物	豚の歴史・品種・特性
17	第1章産業動物	豚の解剖・生理
18	第1章産業動物	豚の飼養管理・豚に多い疾病
19	第1章産業動物	羊の歴史・品種ごとの特性
20	第1章産業動物	羊の解剖・生理
21	第1章産業動物	羊の飼養管理
22	第1章産業動物	羊に多い疾病
23	第1章産業動物	山羊の歴史・品種・特性
24	第1章産業動物	山羊の生理・飼養管理
25	第1章産業動物	山羊に多い疾病

	26	第1章産業動物	鶏の歴史・品種
	27	第1章産業動物	鶏の解剖生理
	28	第1章産業動物	鶏の飼養管理・疾病
	29	第1章産業動物	鶏に多い疾病
	30	振り返り	
比較動物学Ⅱ (31'60)	31	第1章産業動物	畜産業とは・日本の畜産・畜産業の地域による特徴
	32	第1章産業動物	畜産業の生産費の構成割合
	33	第2章1実験動物学総論	動物実験の目的と配慮・実験動物とは・実験動物の歴史
	34	第2章1実験動物学総論	実験動物関連法規の誕生と発展・動物看護師と動物実験
	35	第2章2実験動物の管理学	生体因子の管理学・遺伝子モニタリングの管理学
	36	第2章2実験動物の管理学	物理化学的因子の管理学・栄養学的管理学
	37	第2章2実験動物の管理学	微生物学的管理学・動物実験の基本技術・動物飼育管理上の注意点
	38	第2章3代表的な実験動物の特性と飼育管理	マウス
	39	第2章3代表的な実験動物の特性と飼育管理	ラット
	40	第2章3代表的な実験動物の特性と飼育管理	シリアン(ゴールデン)ハムスター・チャイニーズハムスター・スナネズミ
	41	第2章3代表的な実験動物の特性と飼育管理	モルモット・ウサギ・サル類・その他の動物
	42	第2章4疾患モデル動物	自然発症疾患モデル動物
	43	第2章4疾患モデル動物	トランスジェニック動物・代表的な実験的疾患モデル動物・研究資源バンク
	44	第2章5動物実験の代替法	代替法とその活用・代替法開発の背景と現在の課題
	45	振り返り	
	46	第3章野生動物	野生動物の分類と生物多様性
	47	第3章野生動物	鳥獣害の現状と管理の意義
	48	第3章野生動物	絶滅危惧種の定義に含まれる動物、原因、保全方法やその意義
	49	第3章野生動物	外来生物の定義・在来生態系に及ぼす影響・対策
	50	第3章野生動物	野生動物の救護
	51	第3章野生動物	野生動物救護の対象と内訳
	52	第3章野生動物	野生動物の病気と事故
	53	第3章野生動物	野生動物の病気と事故
	54	第3章野生動物	野生動物の救護体制
	55	第3章野生動物	野生動物の救護体制
	56	第4章展示動物	展示動物の意義と動物園等の役割
	57	第4章展示動物	展示動物の意義と動物園等の役割
	58	第4章展示動物	動物園などにおける個体、群管理、行動管理
	59	第4章展示動物	動物園などの施設管理
	60	振り返り	

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	動物看護学概論	必修・選択区分	必修		
		授業回数	30	時間数	30
対象年次	1年	授業形態		講義	
担当教員 実務経験○	堀内香(獣医師)				
授業概要	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。				
到達目標	動物看護の基本となる概念、動物看護の提供体制、愛玩動物看護師の社会的立場について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻 動物看護学概論				
評価方法	出席率80%以上・試験				

授業計画及び学習の内容

1	第1章獣医療の歴史と概念	獣医療の歴史
2	第1章獣医療の歴史と概念	獣医療の歴史
3	第1章獣医療の歴史と概念	獣医療倫理
4	第1章獣医療の歴史と概念	獣医療倫理
5	第1章獣医療の歴史と概念	動物看護の歴史と概念
6	第1章獣医療の歴史と概念	動物看護の歴史と概念
7	第1章獣医療の歴史と概念	国際的な動物看護師の業務や資格制度の違い
8	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護理論の成立過程
9	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護理論の成立過程
10	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護学の成立
11	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護学の成立
12	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護学と高等教育
13	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護学と高等教育
14	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	本章のまとめ
15	振り返り	
16	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	認定動物看護師の誕生
17	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	認定動物看護師の誕生
18	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	動物看護学カリキュラムの構築と愛玩動物看護師の誕生
19	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	動物看護学カリキュラムの構築と愛玩動物看護師の誕生
20	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	愛玩動物看護師の職能団体

21	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	愛玩動物看護師の職能団体
22	第4章動物看護の役割と概念	動物看護とは
23	第4章動物看護の役割と概念	動物看護における倫理
24	第4章動物看護の役割と概念	動物にとっての福祉・健康・QOL
25	第4章動物看護の役割と概念	看護動物に影響を与える環境要因
26	第4章動物看護の役割と概念	動物病院における動物看護師の役割
27	第4章動物看護の役割と概念	動物病院における動物看護師の役割
28	第4章動物看護の役割と概念	動物看護の探求
29	第4章動物看護の役割と概念	動物看護の探求
30	振り返り	

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	動物内科看護学ⅠⅡ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	60
対象年次	1年	授業形態		講義	
担当教員 実務経験○	佐々木ルリエ(獣医師)、菅谷茜(獣医師)、今瑞穂(愛玩動物看護師、ペット栄養管理士)				
授業概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。				
到達目標	健康の保持、増進、診療補助に必要な技術、検査、処置に必要な技術、投薬に関わる技術、輸液に関わる技術、輸血に関わる技術、心電図、血圧に関わる技術、X線検査とCT/MRIに関わる技術、超音波検査に関わる技術、内視鏡検査に関わる技術、神経学的検査に関わる技術、眼科検査に関わる技術、皮膚と耳の検査に関わる技術について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 動物内科看護学				
評価方法	出席率80%以上・試験				

授業計画及び学習の内容

動物内科看護学Ⅰ (1・30)	1	第1章動物の健康保持・増進	入院動物の日常管理、動物種による管理上の注意点、排泄の管理
	2	第1章動物の健康保持・増進	ワクチネーション
	3	第1章動物の健康保持・増進	外部寄生虫の確認
	4	第1章動物の健康保持・増進	幼若動物と老齢動物の入院看護
	5	第1章動物の健康保持・増進	身体検査、アセスメント(評価)項目
	6	第1章動物の健康保持・増進	入院動物に関するその他の業務、検疫と隔離
	7	第2章衛生・安全管理と環境整備	標準予防策の実際
	8	第2章衛生・安全管理と環境整備	感染コントロール
	9	第2章衛生・安全管理と環境整備	安全管理対策
	10	第2章衛生・安全管理と環境整備	動物飼養管理中の事故防止
	11	第2章衛生・安全管理と環境整備	動物に応じた環境調整
	12	第2章衛生・安全管理と環境整備	動物に応じた入院室整備
	13	第3章対動物関係の技術	動物のアプローチ、安全な散歩および運動技術
	14	第3章対動物関係の技術	安全な散歩および運動技術
	15	振り返り	
	16	第3章対動物関係の技術	ハンドリングと保定法
	17	第3章対動物関係の技術	ハンドリングと保定法
	18	第3章対動物関係の技術	ハンドリングと保定法
	19	第3章対動物関係の技術	動物の処置や検査、状態に合わせた保定法
	20	第3章対動物関係の技術	動物の処置や検査、状態に合わせた保定法
	21	第3章対動物関係の技術	動物の処置や検査、状態に合わせた保定法

	22	第4章動物の生活を援助するための技術	健康な食生活・栄養状態の評価と栄養管理
	23	第4章動物の生活を援助するための技術	栄養の補給法
	24	第4章動物の生活を援助するための技術	摂食行動のアセスメントと援助方法
	25	第4章動物の生活を援助するための技術	排泄行動のアセスメントと排泄物の観察
	26	第4章動物の生活を援助するための技術	自然な排泄を促す援助方法
	27	第4章動物の生活を援助するための技術	強制的な排泄、外科的な排泄障害
	28	第4章動物の生活を援助するための技術	清潔行動のアセスメントと援助方法、身体各部の清潔の援助方法、休息、睡眠状態のアセスメントと援助方法
	29	第3章対動物関係の技術	罨法
	30	振り返り	
動物内科看護学Ⅱ (31・60)	31	第5章診療補助に必要な技術	診療時における愛玩動物看護師の役割、診療補助、受付および会計業務
	32	第5章診療補助に必要な技術	クライアントエデュケーション(飼い主教育)、各種検査業務
	33	第5章診療補助に必要な技術	診療時における対象動物の心理、診療時における飼い主の心理
	34	第5章診療補助に必要な技術	診療時に必要な器具とその準備、管理方法
	35	第6章検査・処置の介助に必要な技術	注射器の取扱い及び管理方法
	36	第6章検査・処置の介助に必要な技術	採血
	37	第6章検査・処置の介助に必要な技術	侵襲の可能性を伴うその他の処置、酸素吸入、強制給餌、包帯法、化学療法
	38	第6章検査・処置の介助に必要な技術	マイクロチップの挿入
	39	第6章検査・処置の介助に必要な技術	マイクロチップの挿入
	40	第6章検査・処置の介助に必要な技術	穿刺、膀胱穿刺
	41	第6章検査・処置の介助に必要な技術	膿瘍、嚢胞の穿刺、胸腔穿刺
	42	第6章検査・処置の介助に必要な技術	腹腔穿刺、腫瘤穿刺
	43	第6章検査・処置の介助に必要な技術	脊髄腔の穿刺
	44	第6章検査・処置の介助に必要な技術	カテーテルの挿入、留置及び管理、静脈留置針
	45	第6章検査・処置の介助に必要な技術	尿道カテーテル、経鼻カテーテル、胃カテーテル
	46	第7章投薬に関わる技術	投薬に際して確認すべき項目
	47	第7章投薬に関わる技術	各剤形の取扱い、錠剤、散剤、顆粒剤

48	第7章投薬に関わる技術	各剤形の取扱い、注射薬、点眼薬、シロップ剤、軟膏剤
49	第7章投薬に関わる技術	薬剤の保存、常温保存、室温保存
50	第7章投薬に関わる技術	薬剤の保存、冷所保存、遮光保存、暗所保存
51	第7章投薬に関わる技術	投与方法とその介助、経口投与、皮下投与、筋肉内投与、静脈内投与
52	第7章投薬に関わる技術	投与方法とその介助、点眼、点耳、霧滴吸入療法、薬浴、塗布
53	第8章輸液に関わる技術	輸液処置時における動物看護師の役割、輸液の適応とリスク
54	第8章輸液に関わる技術	輸液計画、各種輸液剤の適応や特性、輸液に関わる手技
55	第8章輸液に関わる技術	静脈留置針設置の準備と手順、輸液処置中のモニタリング
56	第9章輸血に関わる技術	輸血とは、輸血の適応、輸血のリスク
57	第9章輸血に関わる技術	血液型と輸血
58	第9章輸血に関わる技術	輸血計画
59	第9章輸血に関わる技術	輸血の手順、輸血後の血液検査
60	振り返り	

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	動物臨床看護学総論	必修・選択区分	必修		
		授業回数	30	時間数	30
対象年次	1年	授業形態		講義	
担当教員 実務経験○	堀内香(獣医師)				
授業概要	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。				
到達目標	動物看護過程の展開、診療記録、動物看護業務、ターミナルケアに関わる技術について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第9巻 動物臨床看護学総論				
評価方法	出席率80%以上・試験				

授業計画及び学習の内容		
1	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割
2	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割
3	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	臨床における動物のQOL維持の重要性
4	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	臨床における動物のQOL維持の重要性
5	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	動物看護管理
6	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	動物看護管理
7	第2章動物看護過程	動物看護過程とは
8	第2章動物看護過程	アセスメント ～情報収集・解釈・判断～
9	第2章動物看護過程	動物看護診断 ～動物看護上の問題点を抽出～
10	第2章動物看護過程	動物看護計画 ～目標と具体策の立案～
11	第2章動物看護過程	動物看護実践
12	第2章動物看護過程	動物看護実践
13	第2章動物看護過程	動物看護評価
14	第2章動物看護過程	動物看護評価
15	振り返り	
16	第3章診療記録	診療記録(カルテ)の記入・保存・管理・運用
17	第3章診療記録	動物看護記録の目的や書式、作成方法
18	第3章診療記録	動物看護記録の目的や書式、作成方法
19	第4章動物看護業務	若齢期の動物看護
20	第4章動物看護業務	老齢期の動物看護
21	第4章動物看護業務	老齢期の動物看護

22	第4章動物看護業務	急性期とは・経過別の動物看護の特性
23	第4章動物看護業務	右後肢断脚手術を実施した犬における術後急性期の動物看護
24	第4章動物看護業務	回復期とは・リハビリテーション
25	第4章動物看護業務	前十字靭帯断裂の手術を実施した犬における術後回復期の動物看護
26	第4章動物看護業務	慢性期とは・家庭での継続動物看護を視野に入れた退院計画・指導
27	第4章動物看護業務	糖尿病に罹患した犬における慢性期の動物看護
28	第4章動物看護業務	終末期(ターミナル期)とは・ターミナルケアと看取り
29	第4章動物看護業務	動物医療グリーフケア・死亡した動物への対応とエンゼルケア
30	振り返り	

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	動物臨床検査学	必修・選択区分	必修	
		授業回数		時間数 30
対象年次	1年	授業形態	講義	
担当教員 実務経験○	佐々木ルリエ(獣医師)、菅谷茜(獣医師)			
授業概要	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。			
到達目標	臨床検査の基礎、血液検査、尿検査、糞便検査、細胞診と病理組織検査、遺伝子検査について理解する。			
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 動物臨床検査学			
評価方法	出席率80%以上・試験			

授業計画及び学習の内容

1	第1章臨床検査の基礎	臨床検査
2	第1章臨床検査の基礎	検査値の考え方
3	第1章臨床検査の基礎	主な検査機器
4	第2章血液検査	採血部位および採血方法
5	第2章血液検査	血漿・血清の分離法
6	第2章血液検査	全血球計算(CBC)
7	第2章血液検査	血液塗抹標本の作製法と染色法
8	第2章血液検査	血液塗抹標本の観察法
9	第2章血液検査	ヘマトクリット管を用いた検査、凝固検査
10	第2章血液検査	生化学検査(総論)
11	第2章血液検査	生化学検査(各論)
12	第2章血液検査	生化学検査(各論)
13	第2章血液検査	血液ガス分析
14	第3章血液検査	免疫学的検査
15	振り返り	
16	第4章糞便検査	糞便検査の目的と動物看護師の役割
17	第4章糞便検査	採便方法と観察
18	第4章糞便検査	寄生虫の検査
19	第4章糞便検査	その他の微生物検査・消化試験
20	第3章尿検査	尿検体の採取法
21	第3章尿検査	尿検体の取扱い
22	第3章尿検査	検査手順
23	第3章尿検査	尿沈渣標本に出現する有形成分

24	第5章細胞診検査と病理組織検査	細胞診検査
25	第5章細胞診検査と病理組織検査	細胞診検査
26	第5章細胞診検査と病理組織検査	病理組織検査
27	第6章遺伝子検査	遺伝子検査とは
28	第6章遺伝子検査	検体の採取法と取扱い
29	第6章遺伝子検査	遺伝子検査の対象疾患
30	振り返り	

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	愛玩動物学ⅠⅡ	必修・ 選択区分	必修	
		授業回数	時間数	60
対象年次	1年	授業形態	講義	
担当教員 実務経験○	芝田早苗(JKCTリマーA級、JKCハンドラーA級、JKC単犬種審査員、JKCアニマル衛生士・ペット栄養管理士)、梅山明美(ペットショップ経営、ブリーダー、キャットクラブの会長、審査員)、中村知里(JKCTリマーA級)、山田広美			
授業概要	愛玩動物やの歴史、品種、飼養管理、犬猫の血統、血統書についてや、愛玩鳥やエキゾチックアニマルの特徴、生態、飼養管理、使役動物の歴史と福祉、動物の基本的な取り扱いについて学ぶ。			
到達目標	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。			
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻 愛玩動物学			
評価方法	愛玩動物学Ⅰ、愛玩動物学Ⅱ ※いずれも出席率80%以上・試験			

授業計画及び学習の内容

愛玩動物学Ⅰ (1・30)	1	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
	2	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
	3	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
	4	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
	5	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
	6	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
	7	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	歴史(食肉目の祖先と進化、オオカミから派生した犬)
	8	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	歴史(犬の家畜化、犬種の誕生)
	9	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	現在の飼育状況(ペットブーム・犬種ブーム・ペットの家族化とトラブル)
	10	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	犬の活用
	11	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	飼養管理(飼育施設と環境、食事管理、日常の管理)
	12	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	飼養管理(不妊・去勢、しつけ、飼い主の法的管理義務)
	13	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング
	14	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング
	15	第2章犬の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング
	16	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	歴史(猫の祖先、猫の家畜化)
	17	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	歴史(家畜化による変化、DNA解析による祖先の証明、世界に広まった猫、現代の猫)
	18	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	現在の飼育状況(世界の飼育状況、日本の飼育状況、屋内飼育、屋外飼育、不妊、去勢、猫の殺処分と地域での保護)
	19	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	猫の活用(動物介在療法、動物介在活動、猫カフェ)
	20	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	特徴(猫のネオテニー、身体の特徴)

	21	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	ライフサイクル	
	22	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴(品種、血統の作出、長毛種、短毛種)	
	23	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴(変形等形態的特徴を持つ品種)	
	24	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴(変形等形態的特徴を持つ品種)	
	25	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	飼養管理(関連法規と必要な配慮)	
	26	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	飼養管理(猫の福祉)	
	27	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング(グルーミングの必要性)	
	28	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング(猫の手入れをするときの注意点)	
	29	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング(グルーミングに必要な道具、シャンプー)	
	30	第3章猫の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング(グルーミングに必要な道具、シャンプー)	
	愛玩動物学Ⅱ (31・60)	31	第3章血統と血統書 犬	血統書の意義・血統書の読み取り方
		32	第3章血統と血統書 犬	血統管理と品種改良
		33	第3章血統と血統書 猫	血統書の意義・血統書の読み取り方
		34	第3章血統と血統書 猫	血統管理と品種改良
		35	第4章血統と血統書 猫	血統管理と品種改良
		36	第4章愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理	歴史・現在の飼育状況
		37	第4章愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理	代表的な品種の特徴
		38	第4章愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理	飼養管理
		39	第4章愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理	飼養管理
		40	第5章ウサギの特徴・生態・飼養管理	背景
		41	第5章ウサギの特徴・生態・飼養管理	飼養管理
		42	第6章げっ歯類(ハムスター・モルモットの特徴・生態・飼養管理など)	背景
		43	第6章げっ歯類(ハムスター・モルモットの特徴・生態・飼養管理など)	ハムスターの分類・生態・特徴
		44	第6章げっ歯類(ハムスター・モルモットの特徴・生態・飼養管理など)	ハムスターの飼養管理
		45	第6章げっ歯類(ハムスター・モルモットの特徴・生態・飼養管理など)	モルモットの分類・生態・特徴・モルモットの飼養管理
		46	第7章フェレットの特徴・生態・飼養管理	背景・飼養管理
		47	第8章カメの特徴・生態・飼養管理	背景・主な品種・飼養管理
		48	第9章エキゾチックアニマルの繁殖過程	性周期・ウサギ・げっ歯類・フェレット・鳥類
		49	第10章使役動物	使役動物の歴史と福祉

50	第10章使役動物	身体障害者補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)
51	第10章使役動物	その他の使役犬
52	第11章動物の基本的な取り扱い	動物を安全に散歩、運動させ、ふれあわせることの意義
53	第11章動物の基本的な取り扱い(犬)	基本的グルーミング(シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など)の目的・方法
54	第11章動物の基本的な取り扱い(犬)	基本的グルーミング(シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など)の目的・方法
55	第11章動物の基本的な取り扱い(犬)	定期的な予防管理
56	第11章動物の基本的な取り扱い(犬)	適切な飼養環境やストレスの緩和方法
57	第12章動物の基本的な取り扱い(犬)	適切な飼養環境やストレスの緩和方法
58	第11章動物の基本的な取り扱い(猫)	基本的グルーミング(ブラッシング、耳掃除、爪切り、口腔内衛生管理など)の目的・方法
59	第11章動物の基本的な取り扱い(猫)	基本的グルーミング(ブラッシング、耳掃除、爪切り、口腔内衛生管理など)の目的・方法
60	第11章動物の基本的な取り扱い(猫)	適切な飼養環境とストレスの緩和方法

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	人と動物の関係学	必修・選択区分	必修		
		授業回数	30	時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義		
担当教員 実務経験○	芝田早苗(JKCTリマーA級、JKCハンドラーA級、JKC単犬種審査員、JKCアニマル衛生士・ペット栄養管理士)				
授業概要	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。				
到達目標	人間と動物の関わり、人間の福祉と愛玩動物の関わり、動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育について理解する。				
テキスト・参考書 等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻 人と動物の関係学				
評価方法	出席率80%以上・試験				

授業計画及び学習の内容

1	第1章人と動物の関わり	人と動物の関わり
2	第1章人と動物の関わり	人と動物の関わり
3	第1章人と動物の関わり	文学・芸術における動物:日本
4	第1章人と動物の関わり	文学・芸術における動物:日本
5	第1章人と動物の関わり	日本と西洋における動物の関わり
6	第1章人と動物の関わり	日本と西洋における動物の関わり
7	第1章人と動物の関わり	本章のまとめ
8	第2章現代の人と動物の関わり	動物の飼育と利用の現状
9	第2章現代の人と動物の関わり	動物の飼育と利用の現状
10	第2章現代の人と動物の関わり	人の生活に貢献する動物の役割
11	第2章現代の人と動物の関わり	人の生活に貢献する動物の役割
12	第3章動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の定義と歴史
13	第3章動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育を効果的に実施するには
14	第3章動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育を効果的に実施するには
15	振り返り	
16	第4章人間と動物の関わり	人はなぜペットを飼うのか -人が動物をペットとして飼育する理由-
17	第4章人間と動物の関わり	ペット飼育の歴史と現状
18	第4章人間と動物の関わり	ペット飼育の歴史と現状
19	第4章人間と動物の関わり	ペットの飼育 -人と動物がともに幸せに暮らすために必要なこと-
20	第4章人間と動物の関わり	ペットへの愛着と依存
21	第4章人間と動物の関わり	ペットへの愛着と依存

22	第4章人間と動物の関わり	ペットロスの定義と対策
23	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	動物虐待の定義と背景
24	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	動物虐待への対処
25	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	動物虐待の現状と法規制
26	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	多頭飼育崩壊(アニマル・ホーディング)の定義と背景
27	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	愛玩動物が子どもや高齢者に与える恩恵
28	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	加齢による飼育困難
29	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	Veterinary Social Workと動物看護師
30	振り返り	

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	動物形態機能学実習	必修・選択区分	必修	
		授業回数		時間数 30
対象年次	1年	授業形態	実習	
担当教員 実務経験○	今瑞穂(愛玩動物看護師、ペット栄養管理士)、堀内香(獣医師)、佐々木ルリエ(獣医師)			
授業概要	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。			
到達目標	①顕微鏡各部位の名称、鏡検条件について理解する。顕微鏡の適切な操作法について修得する。顕微鏡の適切な管理法について理解する。②主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する。組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する。③骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する。代表的な関節の名称と構造、機能について理解する。代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する。模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する。生殖器の雌雄差について理解する。			
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版			
評価方法	出席率80%以上 試験			

授業計画及び学習の内容

1	第1章第3節 顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み、顕微鏡の各部位、鏡検倍率、鏡検条件、適切な操作法、メンテナンス法、顕微鏡の管理
2	第1章第3節 顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み、顕微鏡の各部位、鏡検倍率、鏡検条件、適切な操作法、メンテナンス法、顕微鏡の管理
3	第1章第3節 顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み、顕微鏡の各部位、鏡検倍率、鏡検条件、適切な操作法、メンテナンス法、顕微鏡の管理
4	第1章第3節 顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み、顕微鏡の各部位、鏡検倍率、鏡検条件、適切な操作法、メンテナンス法、顕微鏡の管理
5	第1章第3節 顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み、顕微鏡の各部位、鏡検倍率、鏡検条件、適切な操作法、メンテナンス法、顕微鏡の管理
6	第1章第3節 顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み、顕微鏡の各部位、鏡検倍率、鏡検条件、適切な操作法、メンテナンス法、顕微鏡の管理
7	第2章第2節 主要臓器の組織像確認	筋組織(骨格筋・心筋・平滑筋)
8	第2章第2節 主要臓器の組織像確認	筋組織(骨格筋・心筋・平滑筋)
9	第2章第2節 主要臓器の組織像確認	筋組織(骨格筋・心筋・平滑筋)
10	第2章第2節 主要臓器の組織像確認	内臓: 肝臓・膵臓・胃(消化器系)
11	第2章第2節 主要臓器の組織像確認	内臓: 腎臓・膀胱(泌尿器系)
12	第2章第2節 主要臓器の組織像確認	内臓: 肺、気管(呼吸器)
13	第2章第2節 主要臓器の組織像確認	内臓: 副腎・甲状腺(内分泌系)
14	第2章第2節 主要臓器の組織像確認	内臓: 精巣・卵巣・前立腺(生殖器)

15	振り返り	
16	第1章第1節 骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系:骨格および筋肉の形態と機能・代表的な骨の名称と特徴
17	第1章第1節 骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系:骨格および筋肉の形態と機能・代表的な骨の名称と特徴
18	第1章第1節 骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系:骨格および筋肉の形態と機能・関節の動きと筋の関係
19	第1章第1節 骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系:骨格および筋肉の形態と機能・関節の動きと筋の関係
20	第1章第1節 骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系:骨格および筋肉の形態と機能・複合的な構成をもつ部位
21	第1章第1節 骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系:骨格及び筋肉の形態と機能・代表的な骨格筋の名称、構造、機能
22	第1章第1節 骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系:骨格及び筋肉の形態と機能・代表的な骨格筋の名称、構造、機能
23	第1章第1節 骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系:骨格及び筋肉の形態と機能・代表的な骨格筋の名称、構造、機能
24	第1章第1節 骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	呼吸器系:各部位・臓器の位置、関係性
25	第1章第1節 骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	循環器:各部位・臓器の位置、関係性
26	第1章第1節 骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	消化器系:各部位、臓器の位置、関係性
27	第1章第1節 骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	消化器系:各部位、臓器の位置、関係性
28	第1章第1節 骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	泌尿器系:各部位、臓器の位置、関係性
29	第1章第1節 骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	生殖器系:各部位、臓器の位置、関係性
30	振り返り	

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	動物内科看護学実習ⅠⅡ	必修・選択区分	必修	
		授業回数		時間数 60
対象年次	1年	授業形態	実習	
担当教員 実務経験○	今瑞穂(愛玩動物看護師、ペット栄養管理士)、佐々木ルリエ(獣医師)、菅谷茜(獣医師)			
	動物内科看護学実習Ⅰ:今瑞穂・佐々木ルリエ 動物内科看護学実習Ⅱ:佐々木ルリエ・菅谷茜・今瑞穂			
授業概要	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。			
到達目標	基本的な保定の実施、聴診器や体温計の取扱い、全身状態やバイタルサインの評価ができる。			
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版			
評価方法	動物内科看護学実習Ⅰ、動物内科看護学実習Ⅱ ※いずれも出席率80%以上・試験			

授業計画及び学習の内容

動物内科看護学	1	序章 実習に臨む前の心構え	動物の飼い主からの信頼を得るために
	2	序章 実習に臨む前の心構え	動物に触れあう前の心構え
	3	序章 実習に臨む前の心構え	動物に接する者の心構えの基本・愛玩動物看護者の倫理綱領を理解して臨む・5つの自由(アニマル・ウェルフェア)および「動物愛護及び管理に関する法律を知って臨む」
	4	序章 実習に臨む前の心構え	動物愛護管理法・犬と人とのコミュニケーションをとる方法とは = 「ボディランゲージ」を知る。
	5	序章 実習に臨む前の心構え	身支度の心得(身支度・身だしなみチェック)
	6	序章 実習に臨む前の心構え	実習態度チェック項目・身の回りの環境を整理整頓、掃除する
	7	序章 実習に臨む前の心構え	手洗いを習慣にする
	8	第2章第1節 診察補助と身体検査	猫の保定とは
	9	第2章第1節 診察補助と身体検査	猫の保定時の注意
	10	第2章第1節 診察補助と身体検査	猫の運搬方法
	11	第2章第1節 診察補助と身体検査	猫の基本保定法:立位保定法
	12	第2章第1節 診察補助と身体検査	猫の基本保定法:犬座位保定法
	13	第2章第1節 診察補助と身体検査	猫の基本保定法:伏臥位保定法
	14	第2章第1節 診察補助と身体検査	猫の基本的保定法:横臥位保定法
	15	振り返り	

16	第2章第1節 診察補助と身体検査	犬の基本的な保定法
17	第2章第1節 診察補助と身体検査	犬の保定時の注意
18	第2章第1節 診察補助と身体検査	犬の診察台への上げ下ろし
19	第2章第1節 診察補助と身体検査	犬の基本保定法:立位保定法
20	第2章第1節 診察補助と身体検査	犬の基本保定法:犬座位保定法
21	第2章第1節 診察補助と身体検査	犬の基本的な保定法:伏臥位保定法
22	第2章第1節 診察補助と身体検査	犬の基本的な保定法:横臥位保定法
23	第2章第1節 診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価:体重測定
24	第2章第1節 診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価:体重測定
25	第2章第1節 診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価:体温測定
26	第2章第1節 診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価:体温測定
27	第2章第2節 診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価:体温測定
28	第2章第1節 診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:バイタルサイン評価、心拍数の測定
29	第2章第1節 診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:バイタルサイン評価、心拍数の測定
30	振り返り	
31	第2章第1節 診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:呼吸数の測定
32	第2章第1節 診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:股動脈圧
33	第2章第1節 診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:股動脈圧
34	第2章第1節 診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:可視粘膜観察(CRT)
35	第2章第1節 診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:可視粘膜観察(CRT)
36	第2章第1節 診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:浅在リンパ節
37	第2章第4節 注射器の取扱い	注射器の扱い方と薬剤の準備
38	第2章第4節 注射器の取扱い	シリンジの構造、注射器の構造

39	第2章第4節 注射器の取扱い	シリンジへの注射針接続、注射針キャップの外し方、つけ方
40	第2章第4節 注射器の取扱い	シリンジへの注射針接続、注射針キャップの外し方、つけ方
41	第2章第4節 注射器の取扱い	注射針の外し方、注射針の持ち方、薬剤の準備(アンプル)
42	第2章第4節 注射器の取扱い	薬剤の準備(バイアル)
43	第2章第4節 注射器の取扱い	注射法に応じたシリンジの準備(皮内注射、皮下注射)
44	第2章第4節 注射器の取扱い	注射法に応じたシリンジの準備(筋肉内注射、静脈内注射)
45	振り返り	
46	第2章第5節 動物看護技術の応用	注射の手順(皮下注射、静脈内注射、皮内注射、腹腔内注射)
47	第2章第5節 動物看護技術の応用	採血時の補助・採血時の保定
48	第2章第5節 動物看護技術の応用	薬剤の取扱い・処方箋と調剤用語・薬剤の形状
49	第2章第5節 動物看護技術の応用	獣医師による投薬量計算・調剤
50	第2章第5節 動物看護技術の応用	獣医師による投薬量計算・調剤
51	第2章第5節 動物看護技術の応用	薬剤を取り扱う上での注意点、薬剤の使用法の説明、医薬品の在庫管理、医薬品の廃棄、医薬品容器包装等の廃棄
52	第2章第5節 動物看護技術の応用	分包の仕方・錠剤の分割/乳鉢と乳棒を用いた粉碎・内服用液剤の秤取・散剤の秤取
53	第2章第5節 動物看護技術の応用	投薬方法(内服薬・外用薬)
54	第2章第5節 動物看護技術の応用	外耳処置時の補助、エリザベスカラーの装着
55	第2章第5節 動物看護技術の応用	腹帯の装着、創傷管理にあたって
56	第2章第5節 動物看護技術の応用	創傷保護に用いるドレッシング材とバンデージ
57	第2章第5節 動物看護技術の応用	包帯法、創傷管理の観察ポイント
58	第2章第5節 動物看護技術の応用	罨法、冷罨法(アイシング)
59	第2章第5節 動物看護技術の応用	罨法、冷罨法(アイシング)、吸引法(サクション)
60	振り返り	

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	動物臨床検査学実習 I	必修・選択区分	必修		
		授業回数	30	時間数	30
対象年次	1年	授業形態	実習		
担当教員 実務経験○	佐々木ルリエ(獣医師)、菅谷茜(獣医師)				
授業概要	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。				
到達目標	①検体採取、処理の手順、②血液採取法と各成分に応じた保存法、③血液抗凝固剤の種類と特徴、④尿採取法と保存方法、⑤採便法と保存方法、⑥貯留液処理における採取法、保存法について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版				
評価方法	出席率80%以上・試験				

授業計画及び学習の内容		
1	第3章第1節 検体処理	血液採取法
2	第3章第1節 検体処理	橈側皮静脈・外側伏在静脈
3	第3章第1節 検体処理	大腿静脈、頸静脈
4	第3章第1節 検体処理	採血で準備するもの、採血の流れ
5	第3章第1節 検体処理	採血の処理・保存法・採血管への分注・転倒混和
6	第3章第1節 検体処理	血液抗凝固剤の種類と特徴
7	第3章第2節 血液検査	CBC検査の意義
8	第3章第2節 血液検査	CBC検査の手技
9	第3章第2節 血液検査	ヘマトクリット管を用いる方法
10	第3章第2節 血液検査	マイクロピペットの使用法と血液外注検査(採血)
11	第3章第2節 血液検査	血液塗抹標本作成の意義
12	第3章第2節 血液検査	血液塗抹標本の作成方法:スライドガラスを用いる方法
13	第3章第2節 血液検査	血液塗抹標本の作成方法:カバーガラスを用いる方法
14	第3章第2節 血液検査	ギムザ染色
15	振り返り	
16	第3章第2節 血液検査	キットを使用した迅速染色・封入
17	第3章第2節 血液検査	赤血球の観察(採血)
18	第3章第2節 血液検査	白血球の観察・白血球の百分比算定
19	第3章第2節 血液検査	血液化学検査
20	第3章第2節 血液検査	手技・輸血時のクロスマッチ(採血)
21	第3章第2節 血液検査	住血寄生虫の検査法・簡易キットを用いた免疫学的検査・凝固検査

22	第3章第1節 検体処理	尿採取法:自然排尿
23	第3章第1節 検体処理	尿採取法:圧迫排尿
24	第3章第1節 検体処理	尿採取法:導尿
25	第3章第1節 検体処理	尿採取法:膀胱穿刺・尿の保存法
26	第3章第1節 検体処理	採便法
27	第3章第1節 検体処理	採便と保存法
28	第3章第1節 検体処理	貯留液処理における採取法
29	第3章第1節 検体処理	貯留液処理における保存法
30	振り返り	

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	グルーミング実習ⅠⅡ	必修・選択区分	必修		
		授業回数	180	時間数	180
対象年次	1年	授業形態	実習		
担当教員 実務経験○	金子幸一（JKC全犬種審査員、JKCTリマー教士）、田下政雄（JKCハンドラー師範・試験委員、JKC/AKU/FCI全犬種審査員）、飯田美雪（JKCTリマー教士、JKCハンドラーA級）、芝田早苗（JKCTリマーA級、JKCハンドラーA級、JKC単犬種審査員、JKCアニマル衛生士、ペット栄養管理士）、利根川紘子、若林智子（JKCTリマーA級、JKCアニマル衛生士）、中村知里（JKCTリマーA級）、関口和実（JKCTリマーA級、JKCアニマル衛生士）				
授業概要	各犬種に応じたグルーミングを実践する。				
到達目標	グルーミング、トリミングの目的や必要性を理解し実習において実践する。				
テキスト・参考書等	最新ドッググルーミングマニュアル（公認トリマー教本）・JKC全犬種標準書				
評価方法	出席率80%以上				

授業計画及び学習の内容

グルーミング実習Ⅰ	1-36	トレーニング (ウィッグの講義)	トレーニング①	
			トレーニング②	
			トレーニング③	
			トレーニング④	
			トレーニング⑤	
			トレーニング⑥	
			トレーニング⑦	
			トレーニング⑧	
			トレーニング⑨	
			トレーニング⑩	
			トレーニング⑪	
			トレーニング⑫	
37-43	実習(ウィッグ試験)			
44-50	実習心得			
51-90	グルーミング実習			
Ⅱ 91-180	グルーミング実習実習			

東京愛犬専門学校 動物看護学科 3年制

授業科目	総合学習ⅠⅡⅢ	必修・選択区分	必修	
		授業回数	90	授業時間
対象年次	1年	授業形態	講義・実習	
担当教員 実務経験○	金子幸一 (JKC全犬種審査員・JKCTリマー教士) 杉浦市郎 (JKCプロリマー・プロハンドラー、セター・クレーク犬舎代表) 田下政雄 (JKCハンドラー師範・試験委員、JKC/AKU/FCI全犬種審査員) 渡辺まゆみ (JKCTリマー教士・JKC全犬種群審査員・JKC訓練教士) 芝田早苗 (JKCTリマーA級、JKCハンドラーA級、JKC単犬種審査員、JKCアニマル衛生士・ペット栄養管理士) 利根川紘子・齋藤夏帆美・若林智子 (JKCTリマーA級、JKCアニマル衛生士)			
授業概要	グルーミング講義(プードル15時間、テリア15時間、グルーミング6時間、コッカ15時間、マルチーズ6回、シーズー6回、ポメラニアン6回、ヨーキー6回、シェルティ6回)、訓練(6回)、研修旅行、ドッグショーの参加。			
到達目標	Ⅰ:プードル、テリア Ⅱ:グルーミング、コッカ、マルチーズ、研修旅行、ドッグショー Ⅲ:シーズー、ポメラニアン、ヨーキー、シェルティ、Mシュナ			
テキスト・参考書等	最新ドッググルーミングマニュアル(公認トリマー教本)・JKC全犬種標準書・プードル・トリミングの教科書			
評価方法	出席率80%以上			

授業計画及び学習の内容

総合学習Ⅰ	1	プードル①		①プードル:テスト有
	2	プードル②		
	3	プードル③		
	4	プードル④		
	5	プードル⑤		
	6	プードル⑥		
	7	プードル⑦		
	8	プードル⑧		
	9	プードル⑨		
	10	プードル⑩		
	11	プードル⑪		
	12	プードル⑫		
	13	プードル⑬		
	14	プードル⑭		
	15	プードル⑮		
	16	テリア①		②テリア:テスト有
	17	テリア②		
	18	テリア③		
	19	テリア④		
	20	テリア⑤		
	21	テリア⑥		
	22	テリア⑦		
	23	テリア⑧		
	24	テリア⑨		
	25	テリア⑩		
	26	テリア⑪		
	27	テリア⑫		
	28	テリア⑬		
	29	テリア⑭		
	30	テリア⑮		
	31	マルチーズ①		③マルチ・シーズ・ヨーキ:テスト有
	32	マルチーズ②		
	33	マルチーズ③		
	34	マルチーズ④		
	35	マルチーズ⑤		

総合学習Ⅱ

36	マルチーズ⑥		
37	シーズー①		
38	シーズー②		
39	シーズー③		
40	シーズー④		
41	シーズー⑤		
42	シーズー⑥		
43	ヨークー①		
44	ヨークー②		
45	ヨークー③		
46	ヨークー④		
47	ヨークー⑤		
48	ヨークー⑥		
49	コッカスパニエル①		④コッカ:テスト有
50	コッカスパニエル②		
51	コッカスパニエル③		
52	コッカスパニエル④		
53	コッカスパニエル⑤		
54	コッカスパニエル⑥		
55	コッカスパニエル⑦		
56	コッカスパニエル⑧		
57	コッカスパニエル⑨		
58	コッカスパニエル⑩		
59	コッカスパニエル⑪		
60	コッカスパニエル⑫		

総合学習Ⅲ

61	ポメラニアン①		⑤ボメ・シェルティ・グルーミングテスト有。
62	ポメラニアン②		
63	ポメラニアン③		
64	ポメラニアン④		
65	ポメラニアン⑤		
66	ポメラニアン⑥		
67	シェルティ①		
68	シェルティ②		
69	シェルティ③		
70	シェルティ④		
71	シェルティ⑤		
72	シェルティ⑥		
73	グルーミング①		
74	グルーミング②		
75	グルーミング③		
76	グルーミング④		
77	グルーミング⑤		
78	グルーミング⑥		
79	コッカスパニエル 実講①		
80	コッカスパニエル 実講②		
81	コッカスパニエル 実講③		
82	Mシュナ①		
83	Mシュナ②		
84	Mシュナ③		
85	Mシュナ④		
86	Mシュナ⑤		
87	Mシュナ⑥		
88	特別講義①		
89	特別講義②		
90	特別講義③		